

臨時休業に伴う学習の状況について

学びの改革支援課

1 学習進捗の様子

休業なく7月末まで登校できていた時の通常の学習進捗を100%とした場合、7月末までに実際に学習できた進捗

※（ ）は6月末の状況

校 種	小学校 357校	中学校 188校	高等学校 82校
全県平均 (%)	82.5 (64.6)	82.1 (61.7)	77.7 (61.6)
80%以上進めることができた学校数	297校 83% (79校 22%)	156校 83% (34校 19%)	52校 63% (10校 12%)
20%以下の学校数	0校 0% (4校 1%)	0校 0% (0校 0%)	0校 0% (1校 1%)

※小学校は、平均でおよそ2.4週（71時間程度）の遅れ
 ※中学校は、平均でおよそ2.5週（73時間程度）の遅れ
 ※高等学校は、平均でおよそ2.9週（87時間程度）の遅れ

2 修学旅行の状況

※（ ）の%は実施校に対する割合

校 種	小学校 357校(実施354校)	中学校 188校(実施188校)	高等学校 82校(実施76校)
(1) すでに実施した学校	1 (0.3%)	2 (1.0%)	0 (0%)
(2) 中止と決めた学校	3 (0.9%)	18 (9.6%)	5 (6.6%)
(3) 今後実施予定の学校	248 (70.0%)	119 (63.3%)	37 (48.7%)
① 年度当初の計画通り実施を予定	124	14	26
② 実施日・行先等を変更して実施予定 *行先を県内に変更した学校	124 *96校	105 *34校	11 *0校
(4) 実施可否、実施日・行先等を検討中の学校	102 (28.8%)	49 (26.1%)	34 (44.7%)

3 「学びの継続計画」の策定状況

※（ ）は6月末の状況

校 種	小学校 357校	中学校 188校	高等学校 82校
県が例示した「学びの継続計画」を作成した、または作成中の学校	194校 54.3% (162校 45%)	122校 64.9% (90校 48%)	67校 81.7% (63校 77%)

学びの継続計画

飯田市立飯田東中学校

1 学びの継続方針

臨時休校、分散登校等、どのような状況になっても「自律して学ぶ力」を育むために「場所を選ばない」学びを構築し、公正に個別最適化された学習環境を整える。

2 現状把握

	ICT 活用環境・教員の ICT スキルの現状	「場所を選ばない学び」「自律して学ぶ力」
強み	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器を活用することに意欲的な教務主任、若手教員がいる。 11 月に飯田市から「1 人 1 台端末整備」が行われる。 11 月までの間に市教委担当指導主事による 3 回の中核教員研修が実施される。 	<ul style="list-style-type: none"> 休校中に動画とプリントを連動させた家庭学習のあり方を考えた。 配慮を要する生徒に対して個別の学力に応じた家庭学習を課している。 紙媒体による学習計画・報告、課題が定期的・計画的に出されている。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 一部の教員のみが ICT を活用していて、温度差や格差がある。 ICT 機器によるオンライン学習に苦手意識を持っている教員がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席すること、課題を出すことで修得したとみなし、定着の確認をあまりしていない。 一斉一律の授業からなかなか脱却できず、個別最適化の授業イメージがもてない。

3 学びの継続のために準備しておくこと

ICT 活用環境・教員の ICT スキル向上	「場所を選ばない学び」「自律して学ぶ力」
<ul style="list-style-type: none"> 全生徒の家庭における ICT 環境を調査 飯田市教育委員会担当指導主事による ICT 中核教員研修会に参加した教諭が、校内研修会を実施。(11 月までに 3～4 回計画) 研修内容は、以下の目標が達成できるようにするためのものとする。 目標 1 学級担任がオンライン学活（健康観察）をできるようにする。(Web 会議アプリ) 目標 2 教科担任が課題の配布・回収・評価・返却ができるようにする。(クラウドの活用) 目標 3 教科担任が双方向のやりとり可能なオンライン授業をできるようにする。 学校ネットワークの整備 学校で共通して活用する ICT の操作マニュアルの作成、共有（生徒の端末利用のルール等） 若手の教員を ICT 支援員的な役割を担ってもらい、ICT 活用の日常化を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 「場所を選ばない学び」の構築 <ul style="list-style-type: none"> 協働的な学びの前提としての集団づくりのためのオンライン学活の在り方の工夫 不登校生徒、配慮を要する生徒への個に応じたオンライン学習の時間割作成 地域の方々と連携を図り、遠隔による探究的学習を展開（りんご並木作業にかかわる街づくりの方々とオンラインでつなぐ等） 少人数、短時間で学べる個別最適化の授業展開 「自律して学ぶ力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> 予習的、反転学習的な家庭学習を組み合わせた家庭での学び方の工夫 オンラインと家庭学習を組み合わせた授業展開の工夫 評価テストの内容、力の定着をどのように把握していくかの研究

4 再び臨時休業になった際の学びの継続

段階	遠隔学習の内容	学習状況の把握方法
休業が家庭の ICT 活用環境の整備前	<ul style="list-style-type: none"> 家庭に機器がない場合は貸し出し、Wi-Fi 環境が整備された公共施設や近隣校等で学べるようにする 紙媒体により、電話、メール、郵送等を活用した指導 プリント課題と動画（短時間）配信の併用 プリント課題の工夫（例題＋演習など） 	<ul style="list-style-type: none"> 電話連絡による確認 紙媒体（レポート）の提出、取組状況の把握 分散登校による個別指導の充実
休業が家庭の ICT 活用環境の整備後	<ul style="list-style-type: none"> Chromebook によるデータの共有が容易にできることを活用し、生徒の学びの継続性を確保 Web 会議システムを活用した双方向型授業の実施 Google 等で探究的な課題や演習を配信 自分で学ぶ教材を選べるようにする 少人数グループでのオンラインによる話し合い 双方向型とオンデマンドを組合せた学習スタイルの確立 	<ul style="list-style-type: none"> 双方向型通信による学習状況の確認 個別指導＋双方向型授業（オンライン） オンラインによる評価テスト